

学び合い、高め合いの教育の追求

全国協同学習研究会会報 2004年度 1号

発行日：2004年6月30日

事務局

新体制のご挨拶

昨年度末の役員会で新体制の骨格が決まりましたが、委員、顧問などにつきましては未検討なところが残っており、改めて今年度の総会におはかりする予定です。

会長には、中京大学教授、杉江修治が就任することになりました。また、事務局長は杉江の指名により、南山大学教授、石田裕久が就任します。

これまで、会長ならびに事務局長の役割は学校現場の方々が果たされてきました。実践を重視する全協研のポリシーがそこに反映されていたといえます。その意味では今回は変則的な人事となりました。

ただ、会長、事務局長ともに、長く、この会が全国バズ学習研究会の呼称の時代より実践研究に携わってきており、基本的な会の運営については変わることはありません。

この会報のあとのところでもご紹介しますが、今、協同学習への関心はさまざまな形で、さまざまな場で高まってきています。これまでの私たちの実践の基盤の有意義性を改めて確認し、学び合い、高め合いの実践を深め、広げる場として、この会を運営していきたいと思えます。

ニュース1：日本協同教育学会設立される

日本協同教育学会（JASCE：Japanese Association for the Study of Cooperation in Education）が設立されました。これを報道した『教育新聞』（5月20日付）の記事を紹介しましょう。

5月7日、中京大学名古屋キャンパスで「日本協同教育学会」設立総会が開催され、久留米大学の安永悟氏が会長に就任した。協同教育の研究と実践に関心を持つ研究者、実践者約100人で発足した。会員は研究者が半数ほど、そこに学校教育、児童キャンプ、社員研修、看護教育など、多様な現場での実践者が参加するユニークな学会となった。また、研究者も、大学教育の実践者として参加するケースが多い。会の目的は「互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境の創造・実践・普及を通し、民主社会の健全

な発展に寄与すること」と明記されている。いわゆる研究分野ごとの集まりとしての学会ではなく、問題意識で集まった学会である。

電子ジャーナルやメールマガジンの発行、認定研修会などの研修の実施といった運営方針も決まり、11月19日には久留米大学で第1回の研究大会が開催される

この学会は全国協同学習研究会とは別の組織ですが、興味お持ちの方はぜひ、ご参加されることをお勧めします。

ニュース2：協同学習関連の本の出版相次ぐ

「個」という言葉が深い考えもなく教育実践に広がっていった時代には（そしてこの動向はまだ衰えてはいませんが）、協同学習への関心は薄くなり、本も出版しづらい状況が続きました。しかし、さまざまな教育上の矛盾にどう対処するかと真剣に考える人々が増える中、徐々に協同学習関連の本が出版されるようになって来ました。いくつかご紹介しましょう。

ジョンソン・ジョンソン・ホルバック（杉江修治・石田裕久・伊藤康児・伊藤篤訳）1998 『学習の輪—アメリカの協同学習入門』 二瓶社。

アメリカでもっともポピュラーな協同学習の入門書です。

シャラン・シャラン（石田裕久・杉江修治・伊藤篤・伊藤康児訳）2000 『「協同」による総合学習の設計—グループ・プロジェクト入門』 北大路書房。

教室での探求活動の過程に、相互作用とコミュニケーションを組み込んだ協同的な学習の方法であり、総合的な学習の実践的な方略が紹介されています。

ジョンソン・ジョンソン・スミス（関田一彦・監訳）2001 『学生参加型の大学授業：協同学習への実践ガイド』 玉川大学出版部。

大学授業を協同学習で行うための入門と応用の書です。

杉江修治・安永悟・関田一彦・三宅なほみ 2004 大学授業を活性化する方法 玉川大学出版部

大学授業を協同学習で実践した事例集です。その原理の多くは、小、中でもそのまま使えるものです。

また、杉江修治監修の『協同学習叢書』が出版されているのをご存知ですか。すでに 8

冊出ています。

- ①塩田芳久 2000 バズ学習のめざす教育—塩田芳久講演集. 揺籃社.
- ②越智昭孝 2001 同和教育とバズ学習：地域の教育課題に応える実践をめざして. 揺籃社
- ③望月和三郎 2002 心とこころの格闘技—授業の人間関係. 一粒社.
- ④杉江修治 2003 学び合い、高め合う授業の創造. 一粒社.
- ⑤小島幸彦 2003 校長のリーダーシップ. 一粒社.
- ⑥丸山正克 2003 0～3 歳児・こどもの心親心. 一粒社.
- ⑦伊藤三洋 2003 チームワーク—体育における 21 世紀の学力形成. 一粒社.
- ⑧杉江修治 2004 バズ単元見通し学習の理論と実践事例 一粒社

これらの『協同学習叢書』については、出版社の一粒社に直接注文してください

この叢書の一冊に加える出版をしたいという方は事務局にご連絡ください。編集も含めたさまざまなご助力をいたします。

ニュース3：教育改革の軸となる協同学習：犬山市の実践

昨年の全国大会は犬山市の楽田小学校で開催されました。その様子は丸山正克さんにご協力いただいているホームページ『協同学習の世界』をご覧ください。

<http://www.tcp-ip.or.jp/~mrym/home.html>

犬山でこの大会が開かれたのにはわけがあります。犬山市では少人数授業の機会をどの町よりも積極的に多くし、「学び」の授業作りを目指した改革に取り組んできています。本気で授業の中身を変える試みです。ここで広く関心が持たれ、実践の試みのベースとなっているのが「協同学習」なのです。

本物の授業改革と協同学習の有機的なかかわりは次の本で見ることができます。少人数授業を習熟度別指導のための工夫という風にきわめて狭い考えで（しかも相当間違った考えで）現場に導入しようとしてきた文部科学省とは違った、確かな改革の実態を、実践事例もたくさんつけて紹介しています。

杉江修治（編） 2003 子どもの学びを育てる少人数授業—犬山市の提案 明治図書

なお、犬山市では今年度、積極的に学校公開を行っています。市内 14 の小、中学校は、それぞれ最低月に 1 回は地域のかたがたに授業を公開し、また、外部からの参観にも間口広く応じています。参観ご希望の方は犬山市教委 XXXXXXXXXX にお問い合わせください。

情報 その1：協同学習を学ぶための情報が欲しい

昨年末に「協同教育ネットワーク」というHP (<http://www.kyoudo-edunet.jp/>) ができました。一度ご覧ください。

協同学習に関する参考書は、集めるとこんなにあるのかというくらいたくさん紹介されています。また、講演会、ワークショップなど、さまざまなイベント紹介もあります。情報を発信していただくことも重要ですから、皆さんの情報をここに載せていただくのも有意義だと思います。

情報 その2：今年度の全国大会は「いつ」「どこで」?

11月ころ、神戸大学附属住吉中学校での開催に向けて事務局として努力中です。ご期待ください。日程決定しだいお知らせします。
また、ここで総会も開催いたします。日程をご調整いただき、ぜひご参加ください。

情報 その3：東京事務局からの発信

東京事務局長の望月和三郎さんから、東京を中心とした授業研究会のご案内など定期的に情報発信がなされています。ぜひお問い合わせください。

事務局からのお願い

会費請求をいたします。
1年分 2000円です。
会の財政はきわめて逼迫しています。
なお、昨年度未納の方は4000円の納入をお願いいたします。

事務局からもうひとつ

協同学習のよさをぜひ広げたいと思います。どうぞ、多くの方をこの研究会におさそいください。

資料：全国バズ学習研究会から全国協同学習研究会への名称変更について

(教育新聞 2003年4月10日付 掲載)

「全国バズ学習研究会」が2003年3月の役員会で会の名称変更を決め、「全国協同学習研究会」として新たに出発することとなった。もちろん「バズ学習」という学習指導理論の改称ではなく、あくまで会の名称変更である。

全国バズ学習研究会は1980年に設立され、主に教育現場を会場に毎年全国大会を開催し、昨年度までに34回目を重ねた。実践交流を軸として、研究者との交流で理論的な裏づけを行うというスタイルが定着してきていた。この十年近くは最近の協同的な学習指導への関心の高まりの中で、全国大会においてもバズ学習以外のさまざまな協同学習実践や理論の発表、紹介が積極的に行われてきていた。Learning Together、シグソー法、討議法、教科教育における協同学習、インターネットを活用した協同学習などである。

しかし、「バズ学習」と銘打つことにより、広く開かれた会でありながら、どうしても限定的なイメージを拭い去ることができないという実態があった。信頼に支えられた人間関係が教育の基盤であるとするバズ学習は、さまざまな協同学習実践や理論との違いを強調するのではなく、共に高め合う実践づくりに本来の狙いがある。そのような会員の認識を踏まえ、より自由で多様な交流を可能にすることを目指しての名称変更である。バズ学習の実践者、研究者を当面の世話役として会は継続され、協同原理を踏まえた、より幅広い交流を目指している。

なお、新しい名称の「協同学習」は特定の指導手法の名称ではない。役員会の確認では、その内容は「教育における協同に関する実践と研究」という幅広い中身を対象にしようということになっている。そこでは教科指導・生徒指導での児童生徒の協同のみならず、教師集団の協同や学校と地域の協同も含まれる。地域の自治活動での協同も視野に入ってくる。また、大学における協同学習についてはすでに数人の大学教員が実践を持って参加している。

バズ学習実践者・研究者は、協同事態こそが学習者の学習意欲を高めるものであるというグループ・ダイナミックスの実証的な知見を踏まえた実践の重要性について、より広く現場の理解を得たいと考えている。教育における協同は、学習活動の過程での豊かな同時学習を可能とするものであり、主体的な学習態度の育成を可能にするものである。さらに、教育の重要な目標である民主社会を維持、創造する人材育成のための基本でもある。会の名称変更によってこの領域の実践交流がより盛んになり、理論的にもさらに深まることが期待される。